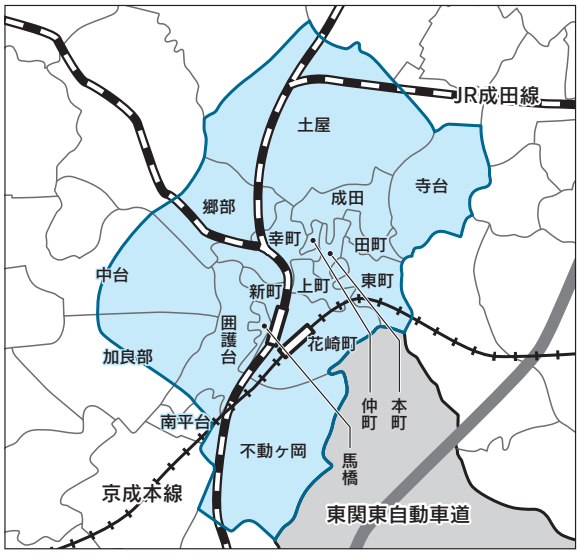
# ふるさとの歩み 第1回

～成田市をつくった町と村～

「ふるさとの歩み」では、広報なりた6月1日号でお知らせした「成田の地名と歴史 ―大字別地域の事典―」の刊行に合わせ、現在の成田市を構成する旧町村の歴史を紹介します。

## 成田町 ～鉄道の開通により飛躍した門前町～




成田市の文化財 第19集―成田の地名―より

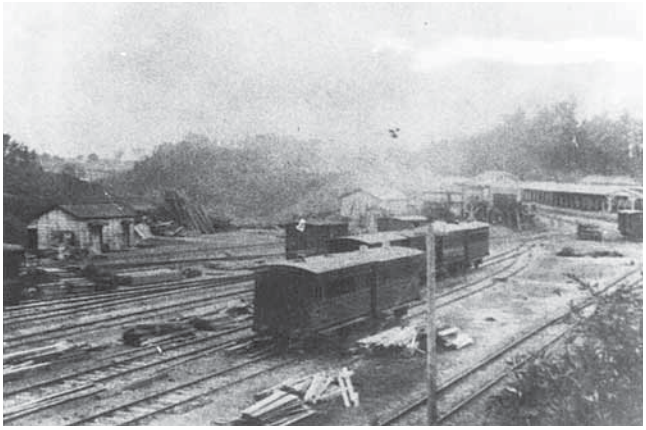
### 町の設立

市制・町村制に基づき、明治22年に成田町・郷部村・寺台村・土屋村が合併し、新たな成田町が誕生しました。合併時の総戸数は778戸、総人口は3,073人。成田山新勝寺の門前町としての性格が色濃く、遠方から多くの参詣客が訪れたことから、参道を中心に旅館や土産物店が建ち並ぶなど、商業が発達していました。

大正9年の国勢調査によると、成田町の職業別人口は、総数7,157人のうち、農業は1,147人、商業は2,454人、工業は1,650人。農業・水産業以外の職業は5,809人にのぼり、全体の約80パーセントを占めています。この職業構成は、農業が産業の中心であった当時の近隣の町村と比べ、特徴的なものでした。その商工業の発展に大きく寄与したのは、東京と成田を結び、成田山新勝寺への参詣客を飛躍的に増加させた鉄道の開通でした。

### 鉄道の開通と街の発展

成田町に初めて鉄道が乗り入れたのは、明治30年。成田－佐倉間に成田鉄道が開通したことで、成田と本所(現在の両国)が片道およそ2時間で結ばれ、新勝寺を訪れる参詣客は大幅に増加しました。その後も、千葉県初の電車である成宗電気軌道が明治43年に、京成電気軌道が大正15年にそれぞれ開通。鉄道網の整備は成田に人の流れを呼び、門前周辺に飲食店や土産物店の出店が続くなど、街は発展を続けました。



成田鉄道成田停車場。右側にあるのが、駅舎とプラットフォーム。左側の台地は囲護台方面(大正9年・「成田の歴史アルバム」より

大勢の参詣客が訪れるようになった門前通りには、多くの店舗が軒を連ねた(昭和13年・「成田の歴史アルバム」より)

### 編集後記

毎年恒例の「千昌夫さんとイモの苗植え」に行ってきました。千さんの出身は、岩手県陸前高田市。実家には津波が押し寄せ、玄関に自動車が流されてきたそうです。実家を訪れた際に撮った市内の映像を見せてもらいましたが、瓦礫(がれき)が散乱した市内中心部は元の街並みを想像することもできないほど荒廃していて、千さんからは「ここは銀座通りだったんだよなぁ…」と寂しそうな声が。「被災地の人にも成田のサツマイモを食べてもらいたい」と、千さんは1本1本丁寧に苗を植えていました。

成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。

平成23年6月15日号 No.1197　成田市のホームページ http://www.city.narita.chiba.jp

平成23年6月15日号／月2回　1日・15日発行／編集発行：成田市役所企画政策部広報課
〒286-8585 千葉県成田市花崎町760番地　電話0476-22-1111(大代表)

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす紙を使用しています。

リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。